

情報公開とコミュニケーション活動

経営の透明性を確保し、社会の信頼を一層高めるため、誠実に、より分かりやすく、情報を公開します。また、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションをより一層充実させ、当社の取組みに対するご意見・ご要望を把握し、迅速かつ的確に事業活動へ反映させます。

情報公開の一層の推進

当社は、事業活動を社会の信頼と共感のもと着実に遂行するため、積極的な情報公開に取り組んでいます。

具体的には、1999年4月に「九州電力情報公開の心構え」を制定するとともに、毎月の社長記者会見や随時の記者発表、IR説明会、ホームページなどを活用した情報発信を行っています。

今後も、経営情報や企業PRに加え、原子力や火力のトラブルなどマイナス情報についても迅速・的確な情報公開を行い、経営の透明性確保に努めていきます。



社長定例記者会見

社内体制

本店に各室部の情報公開責任者で構成する「情報公開責任者連絡会議」を設置しているほか、情報公開に関する各種規定・マニュアル類の整備、訓練の実施や講演会の開催など、情報公開の一層の推進に向けた社内体制の整備を行っています。

また、情報公開の推進に関する取組状況については、社外の有識者を含むコンプライアンス委員会へ定期的に報告を行っています。

非常災害発生時等における情報公開

台風や地震等の非常災害時や突発事故発生時には、「非常災害情報システム」や「お客さま停電情報システム」等により正確に停電状況などを把握し、お客さまからのお問合せに対応するとともに、報道機関やホームページなどを通して広く情報提供を行っています。

また、2005年度に熊本・鹿児島支店で開始した携帯端末向けの非常災害時停電情報提供を、2006年度に全支店へ拡大し、お客さまサービスの向上を図ることとしています。

九州電力情報公開の心構え

当社は、企業としての社会的責任を深く認識し、「企業行動憲章」に基づいた公平・公正な事業活動に徹するとともに、公益を担うものとして地域共生の基本理念のもとに、事業活動の透明性を確保し、お客さまのご理解と信頼を得るよう努めていかなければなりません。

このため、社員一人ひとりが、以下の心構えで、情報公開を推進していくこととします。

- 1 お客さまに対し、積極的に情報を公開しよう。
- 2 お客さまの気持ちに立って、わかりやすく、迅速、的確な情報公開を心掛けよう。
- 3 あらゆる機会を通じて、お客さまの情報ニーズを把握しよう。
- 4 お客さまとの間に意識・認識のズレが生じないよう、常に自己点検しよう。

平成11年4月1日

社長



<当社ホームページ> <http://www.kyuden.co.jp>

2006年度の活動項目	2006年度の主な行動計画
株主・投資家のニーズを踏まえたIR活動の推進	○経営層によるIR説明会、機関投資家訪問の継続実施 ○個人株主との対話活動の検討・実施
原子力関係情報の適宜・適切な発信	○適時・適切な記者発表の継続実施 ○原子力対話訪問活動の継続実施
情報公開推進体制等の整備・充実及びステークホルダーの声収集の仕組み確立	○非常災害情報の携帯端末発信の全社拡大 ○ステークホルダーとのコミュニケーション活動の継続実施 ○ステークホルダーの声集約、分析及び経営への反映

原子力関係情報の適宜・適切な発信

当社はエネルギーセキュリティの確保、経済性及び環境への適合などを総合的に勘案し、原子力を中核としてバランスのとれた電源開発を推進しています。

原子力について、お客さまから信頼し安心していただけるよう、これからも適宜・適切な情報発信に努めるとともに、プルサーマル計画（P61参照）及び次期原子力開発へのご理解につながる広報活動を積極的に行ってまいります。

<原子力関連情報ホームページ>
http://www.kyuden.co.jp/nuclear_index

原子力発電所見学会

お客さまに原子力発電についてご理解いただくため、積極的に見学会を実施しています。

原子力発電所に隣接した展示施

設では、原子炉の働きや原子力発電の仕組みを紹介した映像や、原子力発電所で実際に使われている機器等を展示し、見学に訪れたお客さまのご理解に役立てています。

講演会・イベント

原子力をはじめとするエネルギー問題等についてご理解いただくため、エネルギー講演会や次世代層を対象とした科学実験講座、学校への出前授業など様々な活動を実施しています。



小学生を対象とした科学実験教室

原子力対話訪問活動

地域のオピニオンリーダーとの双方向コミュニケーションを図るため、様々な機会を捉えて、原子力についてご理解いただくための対話訪問活動を実施しています。

各種媒体を用いた活動

原子力発電やプルサーマルについてご理解いただくため、マスメディアなど、様々な媒体を活用した広報活動を展開しています。当社提供番組等でのCM放送や、CMと連動した新聞広告、インターネットを活用した広報活動も積極的に実施しています。

また、イラスト等で原子力やエネルギー問題をわかりやすく解説したパンフレットを作成し、見学会や講演会等で配布しています。

プルサーマル計画についてご理解いただくために

当社は、2010年度までに玄海原子力発電所3号機でのプルサーマル実施を目指し、2004年5月28日、国に対し原子炉設置変更許可申請、佐賀県及び玄海町に対し事前了解願いを提出していましたが、2005年9月7日に国から原子炉設置変更許可、2006年3月26日に佐賀県及び玄海町から事前了解をいただきました。

プルサーマル計画を進めるにあたっては、プルサーマルの必要性や安全性について、皆さまにご理解いただき、安心していただくことが大切であると考えています。

このため、当社は事前了解願いを提出して以降、地元の皆さまへの説明会や講演会、訪問活動をはじめ、新聞・テレビ等のマスメディアを活用した広告や、当社ホームページを活用した広報活動などを実施しています。

また、2005年2月には地元玄海町において、プルサーマル計画について様々なご意見をお持ちの方々にご登壇いただき、当社主催のプルサーマル公開討論会を開催しました。

今後も皆さまのご理解を更に深めるため、情報公開や分かりやすい説明など、積極的な広報活動に取り組んでいきます。



響感トーク&コンサート

IR活動の推進

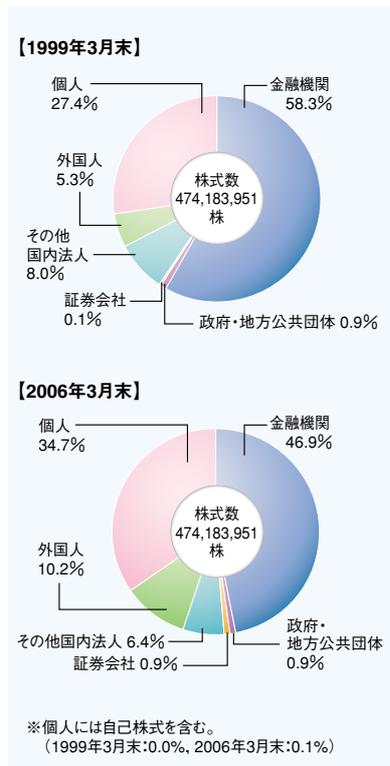
国内外の機関投資家・個人投資家・アナリストに対して、当社事業活動に関する透明性・信頼性を確保するために、経営層によるIR説明会や経営層・事務局による国内外の投資家訪問、施設見学会などを定期的に行っています。

また、当社のホームページにおいて、各種説明会資料やIRツール、財務情報、株式情報などを公開し、誠実かつ公平な情報公開心がけています。

http://www.kyuden.co.jp/ir_index

株主総会においても、インターネットによる議決権行使の仕組みの導入や営業報告のビジュアル化を行うなど、株主の視点に立った参加しやすくわかりやすい総会の運営・推進に努めています。

▼株主構成推移



なお、近年個人株主の割合が増えている中で、個人株主とのコミュニケーションをより活発に行い、ご意見・ご要望を積極的に伺う取り組みも検討しています。

これらのIR活動を通じて、株主・投資家との双方向のコミュニケーションを充実させ、いただいた声を業務運営に反映させることで、信頼関係を深めるとともに、経営品質を高め、資本市場から適正に評価していただくことができると考えています。

社内コミュニケーション

社内でのコミュニケーションの活性化のため、経営層が各職場へ出向き社員と直接対話を行う「経営トップ層と社員の対話」を実施

しています。

また、社内情報共有化と社員のモチベーション向上のため、社内報（九電新聞や社内テレビ）を充実させています。



社内テレビ収録の様子

ステークホルダーの声収集の仕組み確立

このように、当社では、さまざまな機会を通して、ステークホルダーとのコミュニケーションを図り、各部署で業務改善に取り組んでいます。今後、ステークホルダーの声を業務運営に一層反映させるための体制整備についても検討を進めていきます。

▼IRツール



SRI*ファンドへの投資

近年、国内外の投資家の皆さまが企業に投資する際に、経済的側面に加えてCSRを考慮する動きが活発になっています。

当社においては、環境への配慮や法令遵守、地域社会への貢献など幅広い事業活動を通じ、CSRに積極的に取り組んでおり、調査機関から高い評価を受けています。

また、当社の企業年金においても、投資家としての立場から、CSRに積極的に取り組む企業を支援するため、SRIファンドへの投資を行っています。

※用語解説／*SRI:社会的責任投資 (Socially Responsible Investment)

投資を行う際に、従来の投資基準に加え、投資先の企業の社会に対する責任や貢献を重視して投資する方法